

教育研究活動報告書

ふりがな 氏名	小松 洋平	所属・職名	リハビリテーション学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻・講師
専門領域	精神障害者リハビリテーション学	学位称号	修士(作業療法学). 2008(平 20)
最終学歴	2008(平 20) 長崎大学大学院医歯薬総合研究科保健学専攻(修士課程)修了		
教育上の能力に関する事項			
担当科目	生活技術学 I、生活技術学演習、基礎作業学、卒業研究		
法の実践例 教材の開発 教育改善活動等	<p>1. 教育方法の実践例</p> <p>1) 臨床実習に配慮した講義の実践 臨床実習において必要な評価・全体像の把握・治療プログラムの立案がスムーズに行えることを目指し、自身の臨床活動における実践経験をもとに授業を行った。また事例やビデオ等を使用し実践例を提示した。</p> <p>2) 体験による実習・演習の実践 ①実際に障害を持つ人の日常生活活動の体験を通して、臨床実習において必要な評価・全体像の把握・治療プログラムの立案の機会とした。 ②実際に、簡単な作業活動を行い、その体験を通して、作業分析を行う機会とした。 ③実際にプリント作成・自助具作成の実習を通じて、その技術の向上を目指した。 また、自助具コンテストを企画し、学生が創意・工夫を行うよう促した。</p> <p>3) バリアフリーモデル住宅などの見学を通じた住宅改修方法の演習 バリアフリーモデル住宅の見学・演習に企画し、見学や保健福祉従事者との意見交換を通して、臨床実践における課題やトピックスについて学ぶ機会とした。</p> <p>4) ホームルームにおける学生生活および学習支援 担任をしているクラスにおいて、定期的にホームルームを開催し、①臨床実習に向けた心構えの指導や接遇の指導 ②専門基礎科目の復習する補講を行なった。これらは、適宜、資料やドリルを作成し配布した。また、定期的に個人面談を行い学生生活の支援をおこなった。</p> <p>2. 作成した教科書，教材</p> <p>1) レジメの作成 担当する科目は、その要点をまとめたレジメを作成し、配布して講義を行なった。評価用紙・マニュアルなども、要点をまとめたもの作成し、配布した。</p>		

職務上の実績に関する事項

<p>1. 資格, 免許</p> <p>1) 作業療法士 (第 21949 号)</p> <p>2) 精神保健福祉士 (第 210608 号)</p> <p>3) 障害者福祉事業所サービス管理責任者指導者研修修了 (第 472 号)</p>	<p>平成 11 年</p> <p>平成 16 年</p> <p>平成 19 年</p>	<p>厚生労働大臣</p> <p>社会福祉振興試験センター、厚生労働大臣</p> <p>厚生労働省障害保健福祉部長</p>
<p>2. 実務の経験を有する者についての特記事項</p> <p>1) 精神科病院での作業療法の実践 独立行政法人 国立病院機構 肥前精神医療センター リハビリテーション科 作業療法士</p> <p>2) 精神障害者や受刑者に対する就労支援</p> <p>3) 精神障害者地域移行促進事業</p>	<p>平成 11 年 度 ～ 平成 18 年 度</p> <p>平成 13 年度 ～ 平成 21 年度</p> <p>平成 18 年度 ～ 平成 22 年度</p> <p>平成 19 年度 ～ 平成 21 年度</p>	<p>アルコール依存症・薬物依存症専門病棟を担当時には、アルコール依存症者回復プログラムに基づき、多職種で治療にあたった。その中で認知行動療法、集団精神療法を担当した。さらに、薬物依存症者回復を開発し、薬物依存者の体力回復プログラム、自助グループ参加への動機付けなどを行なった。</p> <p>精神科救急病棟を担当時には、さまざまな精神疾患の早期リハビリテーションに携わった。また、多職種による精神科急性期病棟クリティカルパスの開発研究に携わった。これに基づき精神科における早期作業療法を実践し平均在院日数の短縮を図った。この成果は、各種論文、学会などで報告した。また、スムーズな地域移行を推進するために、退院前訪問指導、訪問リハビリテーション、退院後のデイケアにおいて継続的なリハビリテーションを実践した。そのために、地域連携クリティカルパスを作成した。そのことも論文、学会で報告した。</p> <p>児童思春期病棟では、自閉症、注意欠陥・他動性障害、神経症、不登校の児童に対し、作業療法を実践した。また社会生活技能訓練をこれらの患者にもわかるように改変し実践した。この成果は、日本作業療法学会などで発表した。</p> <p>社会復帰病棟では、個別生活訓練と平行し、地域生活講座と称し、地域生活を目指したプログラムを開始した。同時、病院外施設との連携を強化し、多くの患者の地域移行を促進した。この成果は、日本作業療法学会で報告した。</p> <p>精神障害者社会適応訓練事業の参加者に対し、社会生活技能訓練 (SST) を行なった。就労場面における対人場面の練習だけでなく、症状管理や家族との付き合い方などをテーマに SST にて繰り返し練習した。またケア会議にスーパーバイザーとして出席した。</p> <p>県内の刑務所の受刑者に対し、円滑な就労による再犯予防のための就労指導の一環で、臨床心理士とともに SST を実施した。また刑務所職員が SST リーダーが遂行できるよう職員指導も行った。</p> <p>佐賀県精神障害者地域移行促進事業の地域移行推進員として、長期入院患者 6 名を担当し、同伴外出、生活訓練、チープアプローチ、家族支援、地域資源の開拓を実践しにより 3 名の地域移行を支援した。</p>

研究業績等に関する事項			
《平成18年度～平成22年度》			
著書・学術論文等の名称	単著・共著の別	発行所・発表雑誌等 又は発表学会等の名称	発行又は 発表の年月
1. 児童思春期病棟における SST の開発	共 著	メンタルヘルス岡本記念財団研究助成報告集	平成18年11月
2. 精神科救急病棟における集団規模別作業療法の有効性の分析 (修士論文)	単 著	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科保健学専攻修士課程 研究論文集第1巻	平成20年3月
3. 開放病棟と閉鎖病棟における慢性統合失調症に対する集団歌唱活動の効果	共 著	西九州リハビリテーション研究, VOL. 1	平成20年3月
4. IT 機器 (ライフコーダー) を活用した介護予防教室の試み	共 著	西九州リハビリテーション研究, VOL. 1	平成20年3月
5. デイケアを利用する認知症高齢者の家族介護者に関する意識調査	共 著	西九州リハビリテーション研究, VOL. 2	平成21年3月
6. 精神科急性期作業療法の経験-作業療法を開始するまでの過程の重要性-	共 著	西九州リハビリテーション研究, VOL. 2	平成21年3月
7. 音楽活動を援助する学生の心理面と高齢者イメージの変化-在宅高齢者に対するトーンチャイムを用いた音楽活動において-	共 著	西九州リハビリテーション研究, VOL. 2	平成21年3月
8. 昼食後に見当識障害を示す認知症高齢者に対するデイケアアプローチ-私はなんでここにいるんでしょう?-	共 著	柳川リハビリテーション学院・福岡国際医療福祉学院紀要, VOL. 4	平成21年3月
9. 介護予防事業に参加した高齢者の日常的活動量-認知機能低下群と健常群と比較-	共 著	柳川リハビリテーション学院・福岡国際医療福祉学院紀要, VOL. 4	平成21年3月
10. 重度認知症患者デイケアにおける利用中止者の調査と今後の課題	共 著	精神科治療学, VOL. 24	平成21年5月
11. 認知症高齢者を在宅介護する家族に対する主観的介護負担感の検討	共 著	作業療法福岡, VOL. 8	平成21年9月
12. 介護老人福祉施設ケアの向上を目指すADLチーム導入の試み	共 著	作業療法福岡, VOL. 8	平成21年9月
13. 認知症予防事業における作業療法士の役割に関する一考察-高齢者うつ評価尺度 (GDS) を用いて-	共 著	作業療法福岡, VOL. 8	平成21年9月
14. 英国における高齢者支援と作業療法	共 著	作業療法ジャーナル, VOL. 43	平成21年12月
15. まちで暮らす高齢で統合失調症がある人の支援を考える	共 著	作業療法ジャーナル, VOL. 43	平成21年12月
16. デイケア要素を取り込んだ訪問看護 (リハビリテーション) の試み	共 著	作業療法福岡, VOL. 9	平成22年5月
17. 栄養サポートチーム (Nutrition Support Team) における摂食環境調整の試み	共 著	作業療法福岡, VOL. 9	平成22年5月
18. 要介護高齢者の転倒および転落リスク管理の取り組み	共 著	作業療法福岡, VOL. 9	平成22年5月
19. 老年病センターにおける認知症ケアについて - 院内デイケアと外来デイケアの現状報告 -	共 著	作業療法福岡, VOL. 9	平成22年5月
20. 対人関係技能自信チェックリストの作成と受刑者に対する就労支援指導における SST 実施前後の対人関係技能に関する自信の変化	共 著	柳川リハビリテーション学院・福岡国際医療福祉学院紀要, VOL. 6	平成22年6月
21. 地域住民が持つ認知症に対するイメージの実態	共 著	柳川リハビリテーション	平成22年6月

と構造-自由回答アンケートの分析-			ン学院・福岡国際医療福祉学院紀要, VOL. 6	
22. 精神障害者グループホームに勤務する作業療法士の役割-シングルケース法を用いた検証-	共 著		臨床精神科作業療法研究	平成 22 年 6 月
23. 在宅認知症高齢者の主たる介護者の介護負担感と家族機能との関係について	共 著		西九州大学リハビリテーション研究, vol. 4	平成 23 年 3 月
24. 介護老人保健施設における家族支援に関する実態調査	共 著		西九州大学リハビリテーション研究, vol. 4	平成 23 年 3 月
25. 指尖加速度脈波を用いた統合失調症者における自律神経活動の予備的調査	共 著		西九州大学リハビリテーション研究, vol. 4	平成 23 年 3 月
26. 在宅認知症高齢者に対する写真を用いたグループ回想法の効果検証	共 著		西九州大学リハビリテーション研究, vol. 4	平成 23 年 3 月
27. 入学前教育の試み-入学前ドリルを用いて-	共 著		リハビリテーション教育研究第 16 巻	平成 23 年 3 月
<その他論文等>				
1. 地域移行と精神科作業療法 早期退院を視野において精神科救急病棟におけるリハビリテーション肥前精神医療センターの取り組み	共 著		作業療法ジャーナル, VOL. 41, NO. 12	平成 19 年 11 月
2. 早期~回復期リハビリテーションの実際	単 著		精神科オキュペーションセラピー VOL. 27, NO. 1	平成 21 年 7 月
3. 認知症サポーター養成講座テキスト	共 著		発行所: 吉野ヶ里町社会福祉協議会	平成 22 年 3 月
<学会発表>				
1. 精神科急性期病棟における作業療法の考察-早期からのリハビリテーションを導入し, 退院後も継続するための取り組み-	共 著		第 40 回日本作業療法学会	平成 18 年 6 月
2. 障害者自立支援法における精神障害領域の作業療法士が担う役割への提言	共 著		第 41 回日本作業療法学会	平成 19 年 6 月
3. 精神科急性期病棟における個人作業療法実施者の検証	共 著		第 41 回日本作業療法学会	平成 19 年 6 月
4. アスペルガー症候群を対象とした短期集中型コミュニケーショングループ	共 著		第 41 回日本作業療法学会	平成 19 年 6 月
5. 長期入院患者を対象とした地域生活を意識したプログラムの取り組み	共 著		第 41 回日本作業療法学会	平成 19 年 6 月
6. 新たに行なった小集団でのグループ回想法への取り組み-大集団から小集団に変更して-	共 著		第 41 回日本作業療法学会	平成 19 年 6 月
7. 精神障害と結婚、出産、育児について考える	共 著		佐賀県作業療法学会	平成 20 年 2 月
8. 施設高齢者を対象とした音楽活動の効果	共 著		佐賀県作業療法学会	平成 20 年 2 月
11. 運動の習慣を目的とした介護予防教室の取り組み	共 著		日本理学療法学会	平成 20 年 5 月
12. 統合失調症に対する歌唱活動の効果 ~開放病棟と閉鎖病棟の比較から~	共 著		第 42 回日本作業療法学会	平成 20 年 6 月
13. 精神科救急病棟における作業療法-適応集団規模別の精神症状経時変化-	共 著		第 42 回日本作業療法学会	平成 20 年 6 月
14. 認知症において個別の関わりを通し安心感を得る事が出来た症例	共 著		第 42 回日本作業療法学会	平成 20 年 6 月
15. 不快感情が絶えることはない広汎性発達障害患	共 著		第 42 回日本作業療法学	平成 20 年 6 月

者の一例			
16. 主婦という社会的役割への復帰を援助した症例	共 著	会 第 42 回日本作業療法学 会	平成 20 年 6 月
17. 高齢者サービス事業におけるトーンチャイムを用いた能動的音楽活動の効果	共 著	第 2 回日本音楽医療研究 会	平成 20 年 12 月
18. 地域在住高齢者に対する音楽活動はどうしたら継続するのか	共 著	佐賀県作業療法学会	平成 21 年 3 月
19. デイケアにおける認知症家族介護者の「家族支援プログラム」の効果(筆頭)	共 著	第 43 回日本作業療法学 会	平成 21 年 6 月
20. 市町村が実施する介護予防事業参加者の日常活動量の検証	共 著	第 43 回日本作業療法学 会	平成 21 年 6 月
21. The effects of music activities using tone chimes on elderly living at home and students who support the elderly in Japan.	共 著	19 th International Association of Gerontology and Geriatrics,	平成 21 年 7 月
22. 精神障害グループホームに勤務する作業療法士の役割	共 著	第 44 回日本作業療法学 会	平成 22 年 6 月
23. 認知症ケア教育プログラムの試み(第一報)-メンタルヘルスに与える影響についての検討-	共 著	第 11 回日本認知症ケア 学会	平成 22 年 10 月
24. 認知症ケア教育プログラムの試み(第二報)-疲労感が周辺症状の対応方法に及ぼす影響-	共 著	第 11 回日本認知症ケア 学会	平成 22 年 10 月
25. 認知症ケア教育プログラムの試み(第三報)-不安感情の理解を目指した研修内容の検討-	共 著	第 11 回日本認知症ケア 学会	平成 22 年 10 月

研究助成等	1. 平成 18 年(2006) 日本作業療法協会 課題研究助成金 2. 平成 21 年(2008) 永原学園 教育研究基金助成 3. 平成 21 年(2009) 永原学園 健康福祉教育研究助成 4. 平成 22 年(2010) 文部科学省 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
-------	---

学 会 及 び 社 会 に お け る 活 動 等

〈所属学会〉

日本作業療法学会 佐賀県作業療法士会 日本精神障害者リハビリテーション学会
日本認知症ケア学会 SST 普及協会 臨床作業療法研究会

〈社会活動〉

1. 佐賀県作業療法士会： 理事(平成 15 年度～現在に至る)・機関誌査読委員 (平成 22 年度現在に至る)
2. 佐賀県精神科作業療法士交流会：代表 (平成 19 年度～現在に至る)
3. SST 普及協会：全国世話人兼九州沖縄支部事務局長 (平成 19 年度～現在に至る)
4. 臨床精神科作業療法研究会：機関誌編集委員 (平成 22 年度～現在に至る)
5. NPO 法人ふれあいネットサガンズ：理事(平成 15 年度～現在に至る)
6. 吉野ヶ里町社会福祉協議会：包括的認知症対策企画委員 (平成 21 年度～現在に至る)